

シリーズ(その2)

脱炭素×経済成長のまちづくり 「安来市再生可能エネルギー地産地消 ビジョン(仮称)」の策定に向けて

問い合わせ
環境政策課
☎23-3098

市は、令和4年3月に行った「ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向けて、「安来市再生可能エネルギー地産地消ビジョン(仮称)」を策定します。その策定にあたっては、2050年に現役世代となる若者の声を重視することとしています。

若者の声を聴くため、令和4年5月25日に市の若手職員



▲ワークショップでは安来高校2年生19人が参加し、活発な意見交換が行われました。

を対象に、7月21日には安来高校の2年生を対象にワークショップを開催しました。このワークショップでは、

『2030年、若者が帰ってきたくなる町』をテーマに見交換を行いました。さまざまな視点で、再生可能エネルギーの利用可能性や省エネ対策についてのアイデアが出され、ビジョン策定のヒントを得ることができました。

このように、若者に環境問題を自分ごととして考えてもらうことが2050年カーボンニュートラル(※)につながると思っています。

※カーボンニュートラル：暮らしのために排出されるCO₂(二酸化炭素)の量から、森林などが吸収するCO₂の量を引いた結果、「ゼロ」となる状態のこと。

日本遺産を
巡るたたら
の音色

日本遺産の
構成文化財
連載①

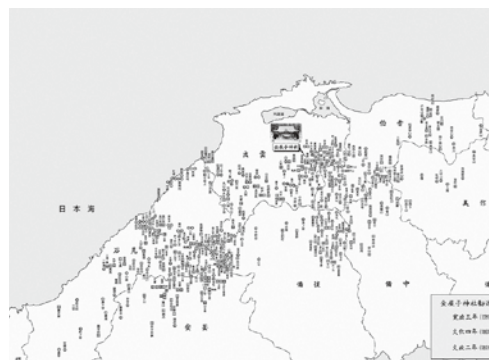


今号は、金屋子神社(広瀬町西比田)に伝わる、最も重要な資料と言える「勸進帳」3冊(江戸後期…寛政3年(1791年)、文化4年(1807年)、文政2年(1819年))を紹介します。

神社は遷宮の際に、信仰者へ寄付のお願いをするのですが、この勸進帳は、神社の関係者が中国山地のたたらや鍛冶などの仕事場を巡って、寄進(寄付)してもらった内容を記録したものです。寄進者ごとに、寄進の金額、地名、職業、名前が記されています。



▲金屋子神社勸進帳3冊(遷宮費用寄進者名簿)。



▲図：金屋子神社へ寄進した人々の仕事場の分布図(江戸後期)。

この勸進帳をもとに、地図に表したものが右記図です。中国山地一帯に寄進者がいることが分かります。これは金屋子子の信仰圏を示しているわけです。加えて、この分布の様子は、実は良い砂鉄のあるところと一致します。良い砂鉄のちが金屋子神を信仰していたことが良く分かるのです。

金屋子神社は過去に火災に遭っているため、伝わる江戸時代の勸進帳はこの3冊だけですが、これだけでも、信仰の実態、歴史とその広がりや今に伝える大変に貴重なものですね。今後、2月2日から和鋼博物館で常設して展示しますので、ぜひ、ご覧ください。

問い合わせ

和鋼博物館 ☎23-2500

